令和５年度　政務活動報告書（１）

会派又は議員名　　角田　広佑

政務活動期間	令和５年８月２４日～８月２５日（２日間）
政務活動先	東京都千代田区一番町２５（全国町村議員会館）
政務活動参加者	角田　広佑（１名）
政務活動項目	○広報クリニック（講師による広報紙の評論）
政務活動項目に係る〈目的・結果等の概要・所見〉	別紙のとおり

令和５年８月２４日

当別町議会
議　長　　髙　谷　　茂　　様

当別町議会
議　員　　角　田　広　佑

研修参加報告書

参加研修名：令和５年度町村議会広報クリニック
講師氏名　：長岡光弘氏（グラフィックデザイナー）
研修日時　：令和５年８月２４日（木）１３：００～１６：３０
研修会場　：全国町村議員会館（東京都千代田区一番町２５）

１．全体講義（３０分）

※　添付書類参照

・広報力を上げる視点は①広報誌としての編集視点、②情報把握ができる紙面構成か、③住民に情報が伝わる紙面編集か、④住民に情報が伝わる紙面編集か。
・区分タイトル→見出し、リード→情報の詳細（小見出し・項目・本文）の構成
・文字は短文構成。一文は６０文字程度
・「読ませる」紙面編集を心がける。要点を簡潔にし、要約を訴求し、メリハリを。
・情報区分の違いを、区割り、色分けなどでメリハリをつける。読みやすい視線の誘導を
・UD フォント→視認性が上がる
・編集（文字数）のルールづけを明確に→編集が困るため
・文字が小さい≠高齢者が読みづらい

２．議会広報クリニック

※　当別町分のみ講師の添削文書あり。その他参加自治体は広報参照

・コンテンツの文字が大きい、フォントを小さくし、余白を活用。コンテンツ間の空白（マージン）をつける（表紙）
・表紙の写真から２ページ目の説明へのつながりはよい
・全体にインデント（上部）をつけるのはよい。
・文字が大きい、ポイント下げる。３行でもよいのでは（Ｐ．２）
・委員会の役割を解説する。臨時会結果のフォントも下げる（Ｐ．３）
・段読みを縦に読ませる形となると、写真の位置は当該質疑、答弁の下に（Ｐ．３～７）
・質問の小タイトルの斜め表記は、余白が取れないので、まっすぐでもよい

・「問」「答え」のアミ抜きはくどい印象に。シンプルでいいのでは
・当初予算のバックの写真に文を乗せると、視覚障がい者はほとんど見えない（Ｐ．８）
・図の工夫はよい（Ｐ．８）
・当初予算と補正予算は別々にするほうがよい。施策ごとだと、当初か補正かわかりづらいため（Ｐ．９～１６）
・一般質問のレイアウトも、代表質問と類似している。差別化してわかりやすくするとよい（Ｐ．１７～２１）
・Ｐ．２２とＰ．２３の段組みについて、一番左のものを一番右に。表内の文字も大きいため、小さくする。（Ｐ．２２～２３）
・これくらいの余白があると見やすくなる（Ｐ．２４）

３．他自治体の参考点（抜粋）

【北海道比布町】
・住民を写真に使う場合、肖像権を留意
・余白を活用して、見やすく
・一般質問の情報量が多すぎる。一問一答がよいのでは
・写真下地に文字はほとんど読みにくい

【岩手県金ケ崎町】
・歳入、歳出のポイントをわかりやすく整理
・総合計画と視点が明確に
・行政職員を名前入りで出しているのがよい（開かれた行政）
・議員の切り抜き写真がよい
・情報、返答が簡潔にまとめられている
・クロスワード（楽しみをもたせる）

【宮城県山元町】
・シンメトリーのバランス→以前 A5 だったとのこと
・タイトルの力強いロゴタイプが良い
・カメラアングル→中央で写真を
・脚注の元にも※をつける
・段組み（長さ）が違うのは×
・２ページ見開きの表が別の場合は右から左で構わない

【宮城県南三陸町】
・作成マニュアルがある。最長の３２ページ
・視覚障害者の見やすい色を。ユニバーサルカラーに配慮
・研修は、①内容②どう議会、住民に活かすか　を明確に
・一般質問→情報量が多すぎ。HP のリンクを貼る等活用を

・各一般質問に、QR コードを

【栃木県高根沢町】

・カフェ・ド・ギカイ（広聴機能）

・基金と地方債を、議会はどうするのかを記載（P3）

・住民意見を掲載し、レイアウトもわかりやすい（P4～P６）

・読ませるフォントを。色を使いすぎている。

・クロスメディアとして、広報に QR やリンクを貼る

・インタビュー企画は続けてほしい

４．総括

インデントに対する評価の相違などあったが８月１７日開催の道町村議会主催研修の内容と共通する指摘とおおむね同様の評価だった。またＨＰやＳＮＳとのリンク、広聴機能を推進している他自治体の紙面も確認でき、今後の広報作成を、広聴機能の推進などに有益な研修であった。

文責：角田　広佑

令和５年度　政務活動報告書（２）

会派又は議員名　角田　広佑

政務活動期間	令和６年２月７日～２月２０日（１４日間）
政務活動先	オンライン研修（eラーニング）
政務活動参加者	角田　広佑（１名）
政務活動項目	○防災士専門講座受講 ・災害メカニズムとその影響：気象災害・風水害 ・様々な災害リスクとその対策：子どもと防災
政務活動項目に係る〈目的・結果等の概要・所見〉	別紙のとおり

研修参加報告書

令和６年２月２８日

参加研修名：防災士専門講座
講師氏名　：玉田太郎氏（防災士研修センター 代表取締役）ほか
研修日時　：令和６年２月７日（水）～２月２０日（火）
研修会場　：オンライン研修（e ラーニング）
参加者氏名：角田　広佑　計１名

１．講義概要
〔必修講座〕(30 分) に加え、〔災害発生のメカニズムとその影響〕の 5 講座 (各 60 分) の中から１つ、〔様々な災害リスクとその対策〕の 15 講座（各 60 分）の中から３つを選択する。 計 5 講座 4.5 時間。防災士取得者のスキルアップ研修。

２．講義内容
【必修講座】防災士専門講座ガイダンス（玉田太郎氏）
１．防災士養成の現状ならびに本講座について
２．海外の災害事例を通して日本の防災を考える
３．防災に関する諸制度の改正状況
４．学習の要点（ふりかえり）
【選択講座】
＜シリーズ＞BCP 業界別実践講座（鍵屋一氏）
１．過去の災害教訓と社会の脆弱化
２．福祉 BCP の意義と概要
３．実効性ある BCP 項目
４．福祉避難所
５．職員研修の進め方
＜気象災害・風水害＞（伊藤みゆき氏）
１．動きが遅い台風や停滞する前線による局地的な大雨
２．寒気の流れ込みによる激しい雷雨や突風、日本海側の局地的な大雪
３．地球温暖化の傾向で長引く暑さ
＜災害ボランティア＞（安部美和氏）
1. 災害ボランティア活動をするときに考えたいこと
2. 災害ボランティアの位置づけ
3. 熊本地震を経験して注目したこと
4. 災害ボランティアを受け入れるって？

＜子どもと防災＞（春名めぐみ氏）

1. 妊産婦や乳幼児の特徴
2. 妊産婦や乳幼児が災害時に抱える課題
3. 妊産婦や乳幼児がいる家庭の災害への備え、避難時の支援のポイント
4. 妊産婦・母親向けの防災ノートの紹介
5. 妊産婦・乳児救護所の例

４．学習内容

ガイダンスでは、近年発生した災害の世界的な動向とその原因、そして今後取るべき対策についての講義を受けた。気象災害・風水害では、近年の豪雨災害の傾向として、台風の動きが遅くなっていること、全体的に気温が上昇しているために豪雨が強くなっていること、日本海側の大雪は予測が困難な状況の説明を受けた。子どもと防災では、妊産婦や幼児期に特有の災害対策や、女性の避難所運営参画、災害救助法における妊産婦対応の位置づけ等の説明を受けたほか、発災後に幼児が抱える心身の課題について講義を受けた。災害ボランティアでは、参加する側と受け入れる側が直面する課題やその対応方法と、活動の心構えなどの講義を受けた。ＢＰＣ業界別専門講座では、特に福祉施設等のＢＣＰの視点や計画の手法など、福祉避難所設立における留意点や視点の講義を受けた。

５．総括

この度、防災士の知識技術の研鑽と、最新情報の取得を目的に、防災士専門講座を受講した。特に当別町において被害を受けるであろう気象災害や風水雪害の内容と、災害時に要支援者として特段の対応を要する子どもの対応、災害時、地域を復興、復旧を支える災害ボランティア、そして災害が発生する前に備えを準備するという視点から、ＢＣＰについての口座を選択した。折しも元旦に能登半島地震が発生したことから、被災地の現状と講義内容を比較しながら、被災地の現状で起こっていることや課題、対策方法をフィードバックする機会が与えられるものであった。

既知のとおり、災害はいつ、どこで発生してもおかしくない。地震予測も現代の科学技術では限界がある。昨今では災害が起こるものと考え、「防災」ではなく災害が発生しても被害を最小限に抑える「減災」の視点が重要視されている。いつ起こるか分からない当別町における災害対策を一考するにあたり、本研修は大変有意義なものであった。

文責：角田　広佑

令和５年度　政務活動報告書（３）

会派又は議員名　　角田　広佑

政務活動期間	令和６年３月３１日（１日間）
政務活動先	在宅（研修映像購読研修）
政務活動参加者	角田　広佑（１名）
政務活動項目	○地方議員研究会主催研修会 ・健康福祉政策の質問の仕方
政務活動項目に係る〈目的・結果等の概要・所見〉	別紙のとおり

研修参加報告書

令和６年３月３１日

参加研修名：健康福祉政策の質問の仕方
講師氏名　：宮本正一氏（医療・健康問題研究所　所長）
研修日時　：令和６年３月３１日（日）
研修会場　：在宅（研修映像購読研修）計２時間
参加者氏名：角田　広佑　計１名

１．講義概要

・自治体事業の事業で成果が出ているか確認しよう
・各問題の取り上げ方のポイント
・私が質問した事例紹介
・福祉部長が唸る質問の仕方
・実際に質問を作ってみよう

２．講義内容

・自治体事業の事業で成果が出ているか確認しよう

講師が携わっていた寝屋川市における「事務事業改善計画」「定期監査等結果報告書」「決算主要事業概要」「決算カード」の内容をもとに、自治体の財政について分析の手法を解説。

・各問題の取り上げ方のポイント

VMF（Value For Money）の視点をもとにした評価、決算委員会の意義、憲法を基にした議会の位置づけと重要性、二元代表制における新機能について解説。

・私が取り上げた事例紹介

寝屋川市において行われた「生活保護ホットライン」の運用等について解説

・福祉部長が唸る質問の仕方

福祉に関する法律（老人福祉法、障害者基本法など）における条文第１条の目的を踏まえた質問の展開について解説。課題を先送りにしがちなテーマ（空き家問題、医療福祉空洞化問題など）を狙うといった視点を解説。

・実際に質問を作ってみよう

①市民相談、興味のある課題を選択、②課題検証について、関係法令・計画の熟読→関係者等と面談→関係課と協議、について解説を受ける

３．総括

本研修において得られた知見について整理する。

まず導入で解説を受けた「事務事業改善計画」では、予算配分の構成を読み解く必要性があること、また「決算カード」では、自治体の財政状況を見極める指標として、①実質単年度収支、②標準財政規模、③財政調整基金、④経常収支比率、⑤一時借入金利子の５点を特に注目すべきとの解説を受けた。

次に、決算委員会は決まったものであることから軽視されがちだが、①予算効果、行政効果を客観的に評価、②会計処理への事前統制、事前監視、③住民に財政実態の理解を得る、という視点を示し、住民に代わって行政評価・経済効果を測定することが重要であると理解した。

福祉の質問を行うにあたり、関係法令の理解はもちろん、自治体の行政計画等も熟読し、その点を示しながら協議を進める質問を作成する視点や方法が肝要であり、そのための調査研究についても同様に時間を割く必要があると学んだ。

自分が質問を作成する際に心掛けている「市民相談」「興味のある課題」を選択すること、それをもとにした課題検証において、「関係法令・計画の熟読」し、関係者や部局とヒアリングを経たうえで作成するという考え方が、本講義でも合致することを確認した。今後もその視点を忘れずに、ブラッシュアップをしていきたい。

文責：角田　広佑